平成29年度ベストティーチング賞受賞教員の授業について
―更なる授業改善を目指して（第２報)―

崇城大学FD委員会　麻田直人*　編著
久次米通孝**　梶川龍藏**　藤井　績***　木村勝美****　宮坂　均*****
柿木稔男******　大栗誉敏***　クリストファー　テンペスト*******

Lectures of the “Best Teaching Award” Winners 2017
— Idea for improvement (2nd Report) —

by
Written and Edited by Naoto ASADA*, Faculty Development Committee, Sojo University
Michitaka KUJIME　Ryuzo KAJIKAWA**　Isao FUJII***　Katsumi KIMURA******
Hitoshi MIYASAKA***　Toshio KAKINOKI******　Takatoshi OHKURI***
Christopher TEMPEST*****

要　旨

平成19年4月の大学設置基準の改正により各大学にFDの実施が義務化された[1)]。これをうけ本学に於いてもFD委員会を設置し広くこの推進に努めてきた。現在その一環として全学的な授業改善を目的に、ベストティーチング賞（以下「BTA」という。）受賞教員の授業を広く紹介する活動に取り組んでいる。その具体的内容は受賞授業の公開とその参観の促進及び動画収録・保存とその公開、並びに各教員からの報告を基にした授業内容の紹介である。本報告は昨年度[2)]に引き続く第2報として、平成29年度のBTAを受賞した教員8名からの授業構築に関する報告を取りまとめたものである

Key Words：授業改善　FD Faculty Development　授業評価　ベストティーチング賞

1．はじめに

ベストティーチング賞は、学内の授業において学生からの評価が高かった授業を実施した教員に贈られる賞である。平成29年度は実施された「授業に関する学生アンケート」で高い評価をうけた教員8名がBTAを受賞した。受賞教員と授業科目を「表－1」に示す。FD委員会ではこれらの教員にそれぞれ「授業の概要」、「授業で気をつけたこと・工夫したこと」、「授業改

＊崇城大学工学部宇宙航空システム工学科助教
＊＊崇城大学工学部宇宙航空システム工学科教授
＊＊＊崇城大学薬学部薬学科准教授
＊＊＊＊崇城大学総合教育センター准教授
＊＊＊＊＊崇城大学生物生命学部応用生命科学科教授
＊＊＊＊＊＊崇城大学情報学部情報学科准教授
＊＊＊＊＊＊＊崇城大学総合教育センターSILC講師
All authors are equally contributed

表-1　平成29年度　BTA受賞教員と授業

表彰区分		教員名	授業科目名	受講学生		履修者数	分野	必修／選択
受講者20～29名	1年	久次米通孝	航空法規Ⅰ	宇宙(操縦)	1年	20名	専門課程	選択
	2年	梶川龍藏	操縦学Ⅰ	宇宙(操縦)	2年	21名	専門課程	選択
	3年～	藤井　績	救命救急医学	薬学	5年	24名	専門課程	選択
受講者30～79名	1年	木村勝美	教職概論	建機宇美デ	1年	55名	教職科目	-----
	2年	宮坂　均	代謝工学	生命	2年	79名	専門課程	選択
	3年～	柿木稔男	通信法規	情報	3年	35名	専門課程	選択
受講者80名以上		大栗誉敏	薬学基礎生物学◎	薬学	1年	134名	専門基礎	必修
SILC*		クリストファー　テンペスト	英語Ⅰ◎U	薬学	1年	26名	総合教育	必修

＊ SILC: Sojo International Languege Center

善に向けた提言」および「その他参考となること」について報告を求めた。以下にその報告と学生による授業アンケートの評価結果をグラフ化して記載する。

また各教員の授業にのぞむ姿勢を直接伝える観点から報告原稿を極力原文のまま掲載した。そのために生じた文言・表現等の不統一についてはご容赦願いたい。

2．「授業に関する学生アンケート」について

「授業に関する学生アンケート」は一連の授業の終盤にアンケート用紙を学生に配付し記入させる形で実施した。その質問内容は次の4項目に大別される。

Ⅰ．学生自身の授業への取り組み
Ⅱ．授業内容について
Ⅲ．教員との対話について
Ⅳ．授業方法について

今回のアンケート評価では上記Ⅰ.「学生自身の授業への取り組み」は教員の評価に直接関係しないことからグラフ化の対象から除外した。

グラフ化の対象とした上記Ⅱ～Ⅳの質問項目を末尾に「資料－1」として添付する。グラフを参照する上での参考にされたい。

あわせて質問項目毎の受賞教員スコアと同一表彰区分の教員の平均スコアの比較も行った。

今回、上記Ⅱ～Ⅳの全ての質問項目の平均スコアの分布はヒストグラムで表示した。これらのグラフは各教員の報告の次項にまとめて記載した。

3．各教員の取り組みとアンケート結果

1)　担当教員　久次米　通孝

科目名　　航空法規Ⅰ

1)-1　授業の概要

空を飛ぶにあたって必要となる、ルール、法規について学習し、知識を習得する。今後受験する、自家用操縦士・事業用操縦士技能証明に係る学科試験・口述試験に合格するレベルを目指す。

1)-2　授業で気をつけたこと・工夫したこと

空を飛んだこともなく、航空専門用語になじみが少ない学生が対象となるため、極力平易な言葉で説明し、比喩などを使いながら頭の中でイメージができるようにして講義を進めている。また、理解度を確認するために学生に質問を投げかけ、学生の言葉で説明させ、どの程度内容を正確に理解しているかを確かめ授業を進めている。航空法の条文の解説が授業の主たる講義内容となるが、単調な授業とならないように、また一方的な話にならないように気をつけ、関連して実際にあった出来事等を雑談的におりまぜ、先ずどのような場合にどのような規定やルールが存在し、それに気をつけなければいけないかを覚えさせるようにしている。

1)-3　授業改善に向けた提言

航空法には専門用語が多々出てきて、それら

の解説・説明が必要となるが、航空専門用語や法律用語以前に、一般的な言葉・用語に対する正確な理解が乏しい学生が存在する。たとえば航空法の「着陸帯」の定義として「…の矩形部分」という言葉がでてくるが、「矩形」という言葉を正確に分かっている学生は少数である。「矩形」を長方形ではなく、台形と勝手に理解し、全く別の部分を頭の中で想像している。また航空用語は英語の略語を使用しているケースが多く、頭文字をとって3文字や4文字で表わされている言葉も多い。そのため、英語を分かっていると比較的容易に専門用語を理解することが可能となる。初めて見る単語についても、日本語も英語も、単語の成り立ちを理解すると、意味も類推することが出来る。「矩形」は、「矩」の意味が分かれば自ずとどのような形かはわかり、台形とはなりえない。英語も接頭辞・接尾辞のもつ意味など単語の成り立ちを理解すれば、単語そのものを初めて見た場合であっても、おおよその意味が推察できるものも多い。

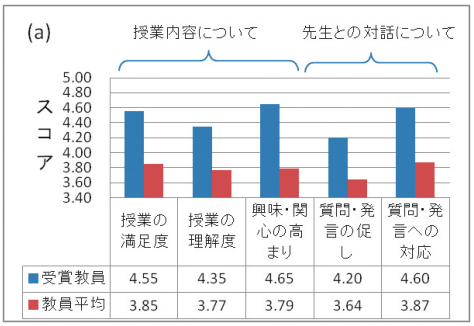
航空法の長い条文を読む場合、頭から括弧書きの中まで順番に読んで行ってはさっぱり理解できない場合がある。長い条文を読むには主語と結びの言葉をまず読み、何について規定してある条文なのかを理解した上で、その条件など詳細を確認して理解するという方法をとると分かり易い。知識を丸暗記に頼るのではなく、自ら考え理解するようにしないと知識は定着しないし広がらない。出来ない学生にたいしては、もう一歩掘り下げた基本を、しっかりと理解させることが肝要と思われる。

1)-4　その他参考になること

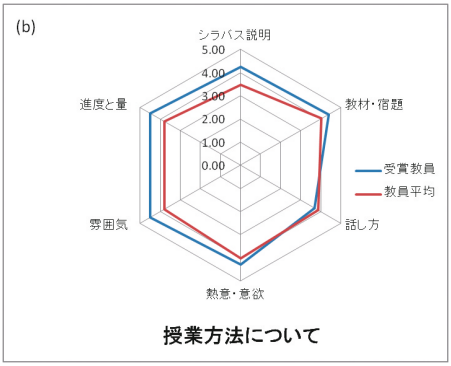
航空操縦学専攻の学生にとっては、知識は持っているだけでは駄目で、それを操縦の各場面で活用できないと何の意味もなさない。学生は操縦訓練が始まり、初めて知識の重要さに気付くこととなるが、それまでに、如何に臨場感をあたえ学習意欲を持たせるかが大切と考える。

1)-5　授業アンケートの結果

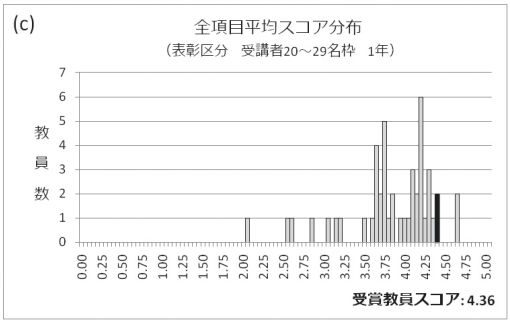
グラフ（a）に質問項目ⅡおよびⅢの結果を示す。受賞教員の取得したスコアを青棒で表し、赤棒で同一表彰区分の教員全体の平均値を表した。



グラフ（b）に質問項目Ⅳの結果を示す。同様に青線が受賞教員の取得スコア、赤線が同一表彰区分の教員全体の平均値である。



グラフ（c）に同一表彰区分内の教員の質問項目Ⅱ～Ⅳの平均スコアの分布を示す。横軸にスコアの平均値を、縦軸はその平均値をとった教員数である。このヒストグラムでは受賞者が含まれるカテゴリを黒塗りで表している。但しこの母集団には（今回受賞対象外の）過去5年以内の受賞者のデータも含まれているため、必ずしも最高位のカテゴリが黒く塗られているとは限らないことに留意されたい。



2)　担当教員　梶川　龍蔵

科目名　　操縦学Ⅰ

2)-1　授業の概要

一年生で学習した内容を基礎として、自家用および事業用操縦士の技能証明を取得するために必要な、航空機の運航に係る実践的な知識を身に付けることを目的としています。

2)-2　授業で気をつけたこと・工夫したこと

職業操縦士を目指して実機訓練を開始するにあたって、空港キャンパスで実際に飛行機を操縦するという新たな学習環境への適応が円滑に進むよう、現場で行われている具体的な訓練内容の紹介を毎回行っています。「今週はこんなことがあった」というように専門用語を用いながら解説すると、学生たちはとても良好な反応を示します。

また、訓練開始後に向き合うことが予想される一般的な課題とその克服方法も解説します。これにより、これまで学習してきたことが実運航でどう活かされるべきなのかを理解させます。ただし、学生によって受け止め方には個人差があり、説明していることの重大さに気づかずに聞き流してしまう者もいるのではないかと感じています。

学生を傍観者の立場に甘んじさせないためにも、講義中に積極的に指名して質問しています。また、国家試験を模した小テストを何回か行って個々の学生の理解度と技能の傾向を把握するようにしています。さらに、基礎知識が十分な水準にある学生に対しては、場面を想定して自分ならどのように対応するか考えを述べてもらうようにします。記憶させることのみが最終目標ではないからです。

2)-3　授業改善に向けた提言

実技訓練が始まった以降の学生に接して感じることですが、資料には目を通して知ってはいるものの、それを活用する場面で役に立たないことがよくあります。筆記試験であれば設問に対してどの答えを選べばよいのか記憶しておけば一定の評価が得られますが、実運航では通用しません。図解して説明するように求めても絵が全く描けない学生もいます。空間を相手にする操縦士という職種では物事の立体的な把握が必須なのです。

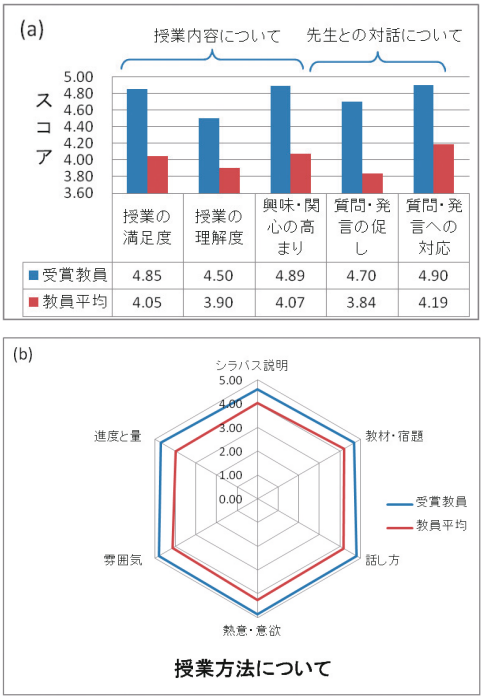
また、操縦士の学科教育は、工学、気象、法規など複数の分野に分かれているものの、全科目の知識が同時に実用的な水準まで高められている必要があります。分野ごとに単位を取って行くとしても、学んだことを忘れていいわけではありません。

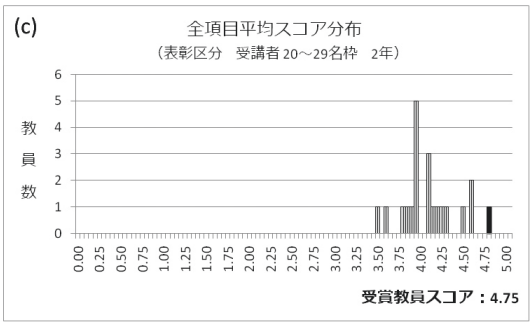
2)-4　その他参考になること

操縦士に求められる知識には、記憶、理解、応用の三階層があると考えています。自分の言葉で説明ができ、実運航の場面で実際に役立たなければ意味がないのです。

2)-5　授業アンケートの結果

1)-5と同様にグラフ化した。





3)　担当教員　藤井　績

科目名　　救命救急医学

3)-1　授業の概要

救急救命医学では、急変した傷病者に対して実施される高度な蘇生法、二次救命処置について学びます。目の前で人が倒れた場合、その場に居合わせた人が心肺蘇生とAEDによる応急処置、BLSを開始します。これを引き継ぎ、十分に教育訓練を受けた複数の医療従事者が薬剤や高度な気道確保、モニター付き除細動器を用いてチームとして蘇生に当たるのが二次救命処置です。突然の心停止から最初の10分間、刻々と変化する傷病者の生体情報を読み取り、判断し、適切なチーム蘇生を実践するための能力を身につけます。

3)-2　授業で気をつけたこと・工夫したこと

モニター付き除細動器の使用方法、高度な気道確保の方法の説明を行った後、使用される薬剤を確認して実習に入ります。1チーム6名編成でリーダーの指示のもと、あらゆる患者急変シナリオに沿って蘇生処置を繰り返します。その際、単なる蘇生手順のトレーニングに終わらないように、毎回、行った処置の内容について振り返りを行うようにしています。良好なコミュニケーションをとりながら効果的なチームダイナミクスを発揮できていたか、さらに改善できる点はなかったか学生間での討議を促します。

キーワードは「明確な役割と責任」、「知識の共有」、「要約と再評価」、「明確なメッセージ」、「クローズド・ループ・コミュニケーション」、「自分の限界を知る」、「相互尊重」、「建設的な介入」です。蘇生の過程において、薬剤や医療器具を適切に選択したかも大切ですが、傷病者の病態や病状をつねに意識していたか、その変化に対してチームとして適切に行動していたかが重要であり、この点について確認させます。これらのことを習慣づけることで問題発見・解決能力が醸成され、将来、医療現場に出た際には十分な臨床能力を発揮することが期待されます。

教員は拙速に答えを求めないこと、教え込もうとしないことに留意しています。最後に理論と実践の橋渡しのまとめを行うに留めています。

3)-3　授業改善に向けた提言

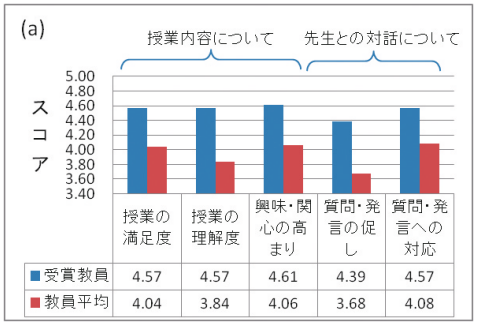
履修する学生が多い場合、チーム数が多くなってしまいます。トレーニングを行っていない時間、当該チーム以外はどうしても注意散漫になりがちです。蘇生を行っていない間も如何に注意を引き付けるか。そのため、トレーニング中のチームの評価に当たらすなどの工夫をしています。

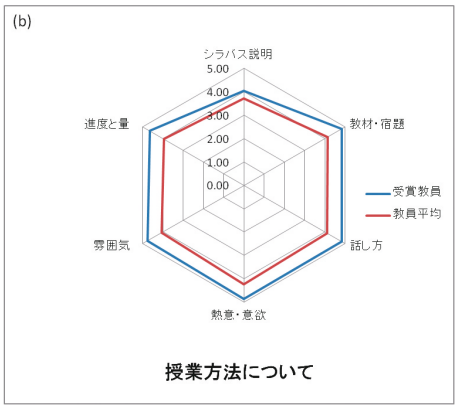
3)-4　その他参考になること

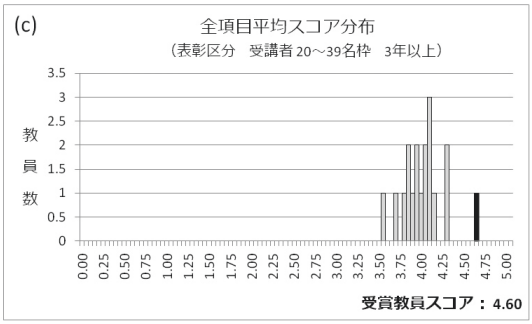
学生たちには、状態の悪い患者さんを見かけたら自ら近寄って声をかけることのできる薬剤師となってくれることを期待しつつ講義を行っています。臨床現場が薬剤師に期待する職能とは何か、この講義がその気づきを与える契機となってくれれば幸いです。

3)-5　授業アンケートの結果

1)-5と同様にグラフ化した。







4)　担当教員　木村　勝美

科目名　　教職概論

4)-1　授業の概要

教員免許状の取得を目指す学生に、教職の意義、教員に必要な資質・能力及び教員の役割や職務内容並びに教員養成の歴史や制度及等について、講義や演習を通して基礎的理解を深めることを目的としている。

4)-2　授業で気をつけたこと・工夫したこと

講義中心の教師主導型の授業にならないように、1コマの授業時間に講義内容に関する5～6の質問事項や学習課題を準備し、教員と学生との質疑・応答や課題解決に協働で取り組むペア学習、グループ学習を可能な限り多く設定している。その中で教員と学生の対話や学生同士の討議の場面を設け学生の考えや思い、経験等を発表させる学生参加型の授業を工夫している。特に配慮していることは、学生が自己の意見発表等を認められることによって積極的に学習に参加する姿勢や態度を身に付けてくると考え、個々の学生の授業への取組を「認め・褒め・励まし・伸ばす」という指導の視点に立ち、授業展開を図るように心掛けている。

教職概論において、授業方法で工夫していることは主に下記の4点であり、基本的には授業内容の理解とともに、学生が主体的に学習に参加する態度を育成するよう配慮している。

(1)授業内容や学習課題を含んだ自作の教材(学習シート等）を作成し、授業の目標や流れを把握させるようにしている。

(2) 学習シートの講義内容の要点を空欄にし記述させることよって理解を深めている。

(3) 課題解決のため、ペアやグループでの討議や議論の機会を設け、検討した考えを画用紙や黒板に書かせ全体で発表させるとともに、各グループの発表を全体で再度討議させ課題解決を図っている。

(4)学習内容に応じた予習･復習課題を学習シートに明示し計画的なレポート提出を課している。

4)-3　授業改善に向けた提言

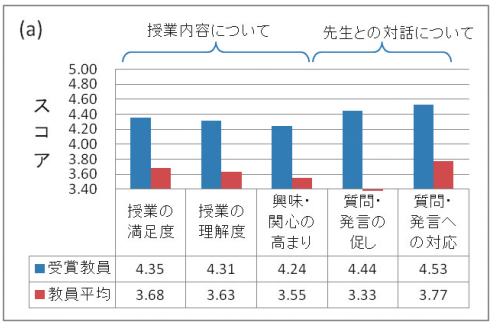
授業改善を図るためには、第1に教員自身が自己の授業を改善しようという意識を持つことであると思っている。学生の理解が不十分な授業内容については、理解を深めるための教材作成や指導方法を工夫し授業を常に改善しようとする意欲や姿勢を持つことが大事である。また、前期・後期に1回、全ての教員が公開授業を行う公開授業週間を設定し、他の教員から授業の優れた点や問題点等に関する意見等をもらい自己の授業を振り返るようにすると教員の授業改善への意識が高まっていくのではないかと考える。さらに、学科単位で代表者による授業を研究し授業改善を図る研修や、個々の教員が日頃の授業で実践している教材作成や指導方法の工夫などについて発表し検討を行う研修の場を設ける取組などが、教員の資質・能力の向上に繋がるものと考えている。

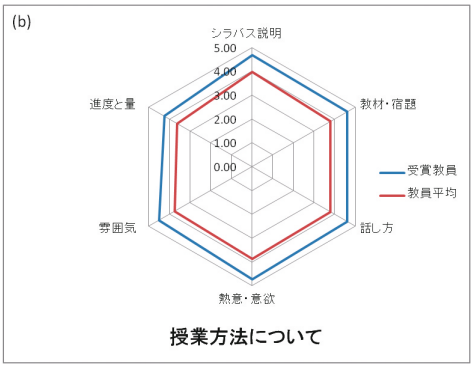
4)-4　その他参考になること

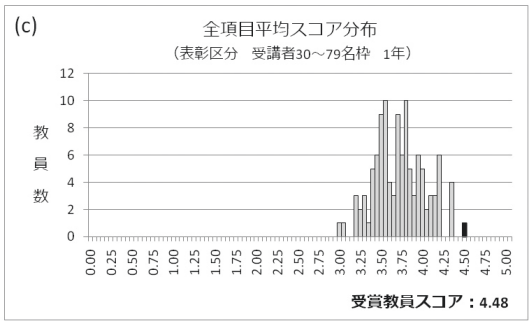
特になし。

4)-5　授業アンケートの結果

1)-5と同様にグラフ化した。







5)　担当教員　宮坂　均

科目名　　代謝工学

5)-1　授業の概要

代謝工学にかかわる炭素代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝、光合成、等の基礎について復習しながら実例を学ぶ。

5)-2　授業で気をつけたこと・工夫したこと

代謝工学の主題は代謝改変による物質生産ですが、応用生命科学科の学生は、医療関係に関心を持つ学生が多いので、できるだけ医療や健康に関わる題材を取り上げるようにしました（例：炭素代謝におけるがん細胞のワールブルク効果、メタボローム解析によるがん診断、等）。講義は、代謝の基礎を復習し、その後代謝工学の実例について説明しました。実例は、例えば「青いバラ」や「香りのよいお酒を造る」といった学生が関心を持ちそうな例を選びました。また、講義に関係する余談を紹介することで、学生の関心を高めるようにしました。今回は、全く新しいタイプのがん治療薬として最近話題になった免疫チェックポイント阻害薬のオプジーボを取り上げて説明しました。オプジーボは極めて薬価が高いこと（当初薬価が1人年間約3000万円、薬価引き下げ後でも約1500万円）が問題とされています。たまたま温熱療法が専門の知り合いの研究者から「温熱療法は貧乏人のオプジーボ（お金をかけずにオプジーボと類似した効果がある）」という話を聞いたので、これを余談として紹介したところ、学生から多くの質問がありました。そこで質問を集約して知り合いの研究者に取り次いで回答してもらいました。この試みは、学生には最新の話題が聞けたことで概ね好評であり、知り合いの研究者からも「学生さんから普段気づかない貴重な質問、意見を聞けて良かった」と感謝されました。

5)-3　授業改善に向けた提言

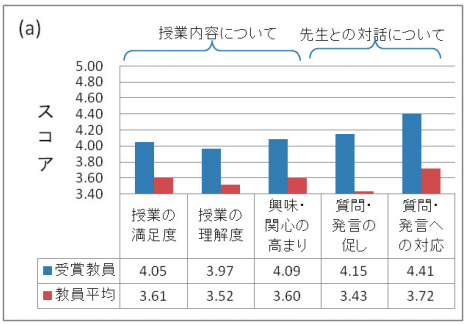
基礎的で重要なことは、繰り返し（3回くらい）講義で話し、それを学生に質問するようにしています。それでもなかなか覚えてくれないのですが、具体的な例を示して話をすると比較的覚えがいいように思います。例えば、これは重要な話ではないですが、「化血研では馬で抗血清を作っている」といった話は、印象に残りやすいのかよく覚えてくれます。

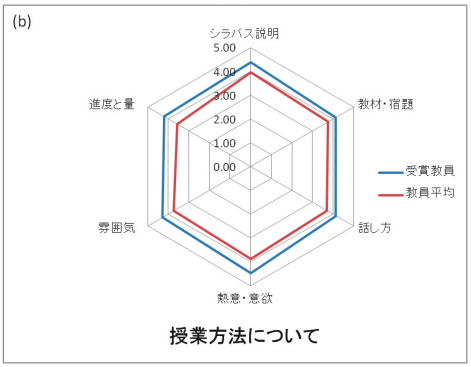
5)-4　その他参考になること

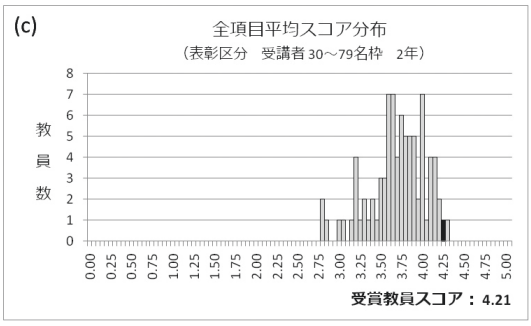
特にありません。

5)-5　授業アンケートの結果

1)-5と同様にグラフ化した。







6)　担当教員　柿木　稔男

科目名　　通信法規

6)-1　授業の概要

無線資格（第一級陸上無線技術士）の国家試験対応の授業の一つである。受験希望者以外でも講義を通じて、国家試験に興味を持つようにわかりやすく解説する。この資格を取得すれば無線分野の就職にも大変有利になる。

6)-2　授業で気をつけたこと・工夫したこと

学生との対話については、授業中や授業外で学生が気軽に質問や発言が出来るように、さらに親近感が持てるよう個々の学生に和やかに話しかけるようにしている。学生からの質問や発言に対しては、授業中や授業外でも必ず応答し、学生と直接関わる時間を大切にしている。

授業方法については、初回の授業でオリエンテーションを行っている。シラバスを参照しながら、その詳細な説明（国家資格の有益性と授業との関係）と今後の授業の進め方、授業方法、成績の評価方法、授業を受けるときの姿勢について、十分説明し、理解を促した上で、履修登録をするか否かを決定させる。

授業に使用する教材については、国家資格である無線資格（第一級陸上無線技術士）の取得を前提とした、実践的なものを採用している。また、無線資格を取得しない学生に対しても本講義の単位取得が可能なように、授業の進捗を多少遅らせても対応可能とするため、重要な項目がまとめられたページ数の少ない教科書を選定している。

授業での話し方については、マイクを通しても聞き取りやすいように、意図的にゆっくり、はっきりとした発音で説明を行っている。

授業の雰囲気については、学生に気軽に話しかけ、親近感がわくような雰囲気作りを心がけている。学生の着席場所は自由にしているが、習慣的に決まっているので、授業の妨害や、いつも遅刻してくる学生の名前を覚え、授業に積極的に参加するようフレンドリーに個別に話しかけて穏やかに諭し、授業の雰囲気を良くするようにしている。

授業の進行スピードに関しては、時々学生に問いかけ、理解する時間を調整している。

授業全体を通して心がけていることは、学生の立場にたち、聴講とノートに記入させる時間を別々に設け、全員がノートを確実に取れるように配慮している。さらに授業時間内に授業内容を理解させるために、出来るだけ身近な具体例をあげて理解力の向上に努めている。わからないときは気軽に質問や発言が出来るような雰囲気を大切にしている。

工夫したことは、授業全体を通して心がけていることに加えて、演習問題を解かせ、教室内を巡回し、個々の学生への声かけと授業の中盤でリラックスタイム（1分程度背伸びや深呼吸等をさせる）を実施し、集中力が出るように気

分転換させ、授業を有意義に聴講できるようにした。

6)-3　授業改善に向けた提言

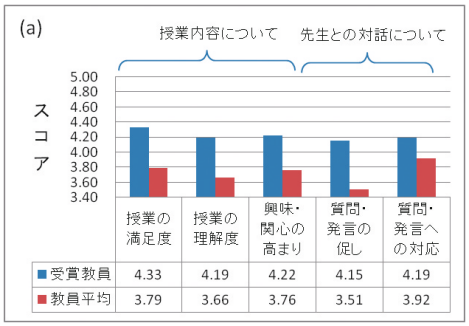
授業で気をつけていること・工夫したことと重複するが、学生の立場にたち、学生がこの授業を受けてよかったと満足する授業を行うことが重要であると考えている。

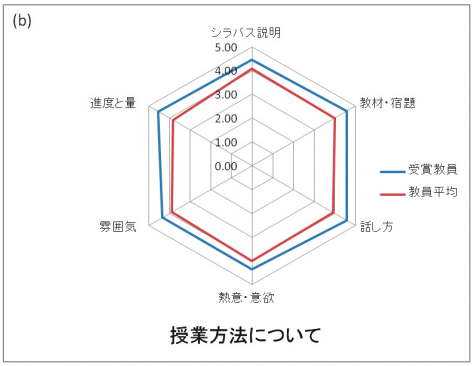
6)-4　その他参考になること

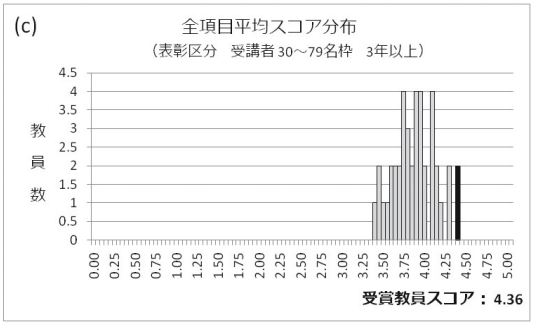
特にございません。

6)-5　授業アンケートの結果

1)-5と同様にグラフ化した。







7)　担当教員　大栗　誉敏

科目名　　薬学基礎生物学

7)-1　授業の概要

生化学、生理学、薬理学など薬学で学ぶ上で必要な生物学の基礎を学ぶ。

7)-2　授業で気をつけたこと・工夫したこと

専門用語をなるべく使わず分かりやすい言葉での講義を心がけた。1年前期の講義の為、一方的な知識の詰め込みにならないよう学生のキャパに合わせた量の講義内容とし、途中で質問タイムを設けることで集中力が切れないよう努めた。

毎回復習する習慣がつくように、講義の始めに前回講義の内容の確認テストを行った。また「○○について説明せよ」という文章形式の出題により理解力と文章力の向上を狙った。

7)-3　授業改善に向けた提言

教員側は専門性の高い知識を元に講義をするわけであり、教員側からすれば簡単と思う講義内容でも、学生にとっては難しいと感じるのがほとんどである。学生の視点に下がって、「何でこんなのが解けないのか」と思うのではなく「どうすれば（学生が）理解できるのか」と考えるように心がけている。その為には、これ以上掘り下げて教えても無駄だという境界線を引いてしまわずに、切り口を変えながら試行錯誤する必要がある。また教える量も重要で、1回の講義の情報量が多すぎると学生はついていけなくなる。教員は「覚えるべき事が沢山あるので、講義の情報量が多くなるのは仕方がない」という考えになりがちだが、学生は情報量の多さから要点が掴めず、理解せずに暗記していくようになってしまう。それよりも内容を絞って深く理解させていく方が、学力の向上につながると思われる。1回の講義でスライドや講義プリントが非常に多い状況は、学生のキャパを超えている可能性があるので、それらの量は気を付けたいところである。もし、教えきれない項目がある場合は、教員間で情報を共有し、他の科目でフォローすれば解決できると考えられ

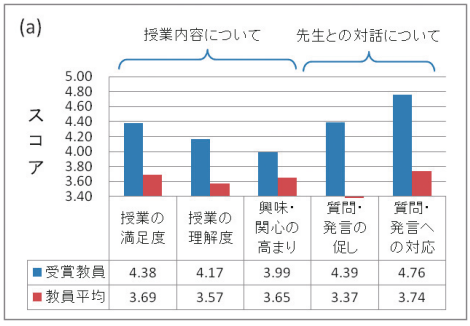
る。また学生の質も年々変わっていく。これまで多くの学生がついてこられた講義の難易度や教える量でも、対応出来ない学生が増えていっているのを感じる。以前の学生と比べるのではなく、現在の学生の質に合わせた難易度や量とし、学力を伸ばしていくのが重要と思われる。

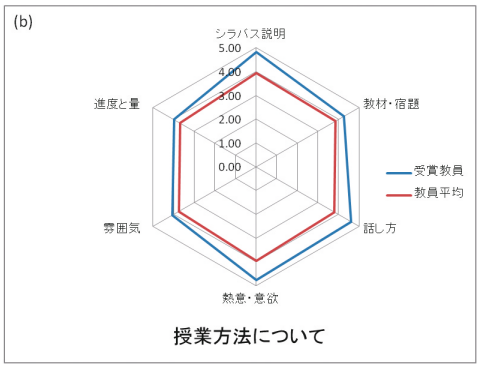
7)-4　その他参考になること

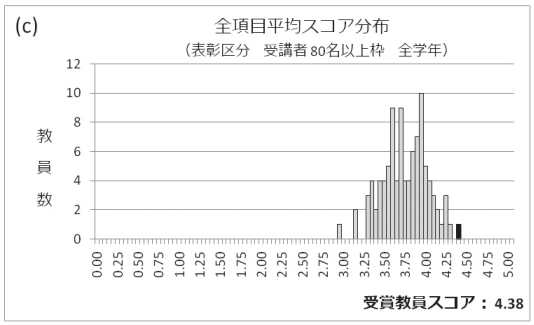
90分の講義であるが、学生は90分も集中出来ない。最初から講義終わりまで隙間無く新しい内容の講義をしても、学生は全て把握できず、教える側の一方的なものとなってしまう。そうならないよう講義始めは確認テストとその解説の時間とし、また講義途中では質問タイムを設け、学生が集中して講義を聴き理解するように努力している。

7)-5　授業アンケートの結果

1)-5と同様にグラフ化した。







8)　担当教員　クリストファー テンペスト

科目名　　英語Ⅰ◎U

8)-1　授業の概要

英会話1、2年生クラス

8)-2　授業で気をつけたこと・工夫したこと

スピーキングとリスニングに焦点を当て生徒が授業を楽しめるように、生徒が教室に入ってきたら、温かく、リラックス出来る雰囲気を作ることを心がけています。それに加え、教師としてだけではなく、友達としてのように対話することも心がけています。そうすることによって、英語にそれ程興味がなかったとしても、生徒たちはアクティビティに参加すると思います。

8)-3　授業改善に向けた提言

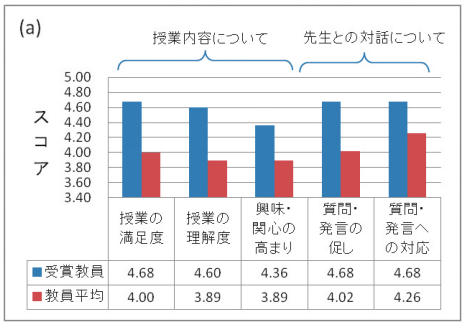
生徒たちの会話を録音し、それを聞き、書くことによって、彼らは、コースを通して、英語を話すことにおける成果を示すと同時に、間違えた場所を分析でき、次に生かし、改善することが出来ます。

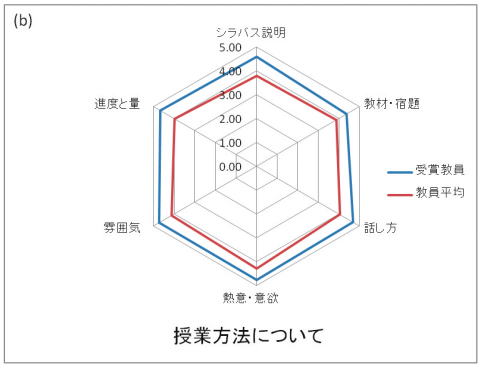
8)-4　その他参考になること

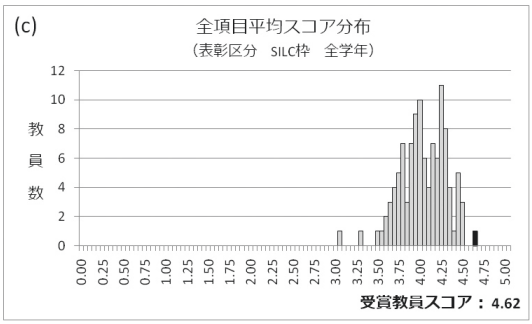
未だに、長い間、グループで会話を続けるのが難しいと思っている生徒もいます。会話を遮ったり、提言、意見を出すといったような会話の方策に焦点を置くことによって、生徒たちの会話のスキルが上がると思います。

8)-5　授業アンケートの結果

1)-5と同様にグラフ化した。







4．結果

1）授業の形態について

今回のBTA受賞科目は、総合教育･専門基礎･専門課程とそれぞれ分野が異なると共に、英会話から資格取得に特化するものまで多岐にわたっていた。そのため授業形態も講義型からペア・グループ討議型、チーム実習方式など様々である。

資格取得に関連した授業は8科目中6科目だった。これらの科目では知識の定着とその活用･実践に主眼をおいた授業の傾向が見られた。

また3科目の授業がアクティブ・ラーニングを報告している一方5科目は講義型の授業形態を報告していた。

2）授業内容について

多くの授業に共通していたのは学生の理解度を高めるため多数の実例紹介を授業に盛り込んでいることである。

あわせて90分間の授業については学生の集中力維持のため余談を織り交ぜると共に、リラックスタイム・質問タイムを適宜取り入れる等の事例が報告されている。

また学生の理解を深めるために授業の進行速度や一回の講義で教える量についても留意が必要との報告がなされている。

3）学生との接し方について

多数の教員が学生との接し方について言及していた。

報告に含まれていた関連キーワードを以下に列記する。

「認め・褒め・励まし・伸ばす」
「親近感」「フレンドリー」
「学生の視点に下がって…」
「温かくリラックスできる雰囲気」

これらから読み取れるのは、難解な事柄をいかに理解させ身につけさせるかということに積極的に取り組み、学生に寄り添ったスタンスで授業を進めていることであった。

4）アンケートのスコアに関して

アンケート・データの分析から各教員とも他の教員の平均値の1.12～1.20倍のスコアを得ていることがわかった。

全項目の平均値のヒストグラムでは母集団のデータは概ね正規分布に準じた分布を示すと共に、当然のことながらBTA受賞教員はその最上位付近に位置していることが見てとれる。また今回のヒストグラム作成により受賞区分毎の教員数の差も明らかとなった。対象教員が最少の区分では18人、最大では111人と6倍を超える差であった。

5．考察

1）各報告から

文科省は大学生に求める能力として、教養・

知識等に加え、課題発見・探求のための批判的思考力や判断力、チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担い得る論理的・社会的能力などを掲げている[3)]。また、これらの育成のため学生の主体的な学びを重視した教育への転換を図るアクティブ･ラーニングの導入･拡大を各大学に求めている。

しかしながら今回BTAを受賞した科目の半数以上が在来型の講義を主体としたものであり、そのほとんどが資格取得に関連するものであることに着目したい。

これはそれぞれの資格試験が受験者に一定の知識や知見のレベルを求め、それに対し各教員が限られた開講期間内に学生をその水準まで効果的に引き上げるための手法として講義型を採用しているためと考えられる。

文科省が大学生に求める広範な用件と各資格が受験者に求める専門的用件の違いがこのような授業形態の差異となって現れたものと推測される。

今後、社会の急激な変化と共に大学にも更なる専門人材の育成が求められることになる[4)]。

本学に於いても高度な専門資格教育と主体的な学びに主眼をおいたアクティブ・ラーニングとの両立というハイレベルな課題に更にチャレンジしていかなければならない。

2）今後の取り組み

今回アンケート項目毎に（たとえば「授業の満足度はいかがですか」には）どのように取り組んだかについても報告を求め、各教員の対応の共通性や多様性についての検討を試みたが、編者の力不足から項目毎の特徴やそれらを比較するには十分なものを読み取ることができなかった。

今後報告を求めるにあたって、たとえば「あなたは学生の理解度を上げるためにどのような取り組みをしましたか？」、「あなたは学生の興味・関心を高めるためにどのような取り組みをしましたか？」というアンケート項目毎の一問一答式のフォームに記入してもらうという手法の検討も必要ではないだろうか。

また、今年度からポートフォリオが導入されたことに伴い、授業アンケートもこれに連携する形で実施されることになった。これにより今まで実施されていなかった範囲からもアンケート・データが収集されることになる。

FD委員会はこのポートフォリオと連動したアンケートの新たな分析手法の検討にも着手した。この中では座学／実習・実験科目、基礎科目／応用科目、PBL科目等々、特性の異なる授業のスコア傾向をふまえて受賞区分の再検討が必要となるかもしれない。また今回明らかになった受賞区分毎の人数格差も今後検討すべき課題となるだろう。

あわせてFD委員会では、各受賞教員の授業参観の促進およびそれらの動画収録も進めている。収録された授業動画は今後アーカイブスの形で全教員が視聴できるようにする予定である。

本報告にあわせて参照しBTA教員の「創意・工夫・取り組み」が多くの教員の授業に反映され、全学的な授業改善に資することに期待したい。

謝　辞

今回、共著者として執筆をお願いした8名の先生には、お忙しい中、限られた時間にもかかわらず詳細な原稿を作成頂き篤く御礼申し上げます。おかげをもちまして多彩な内容の報告として取りまとめることができました。この紀要報告が本学全教員の授業改善に大きく寄与することと確信しております。

また多数の貴重なご助言とご支援を賜りましたFD委員会のメンバー各位、報告書の依頼・取りまとめ、アンケート・データの整理・収集にご尽力頂きました教務課の関係各位にあわせまして篤く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

参考文献

1）大学設置基準　第25条の3
2）崇城大学紀要　第43巻「報告」（p. 235-248）

3) 平成27年度文部科学白書　第5章　高等教育の充
実　第1節　高等教育施策の動向
4) 平成27年度文部科学白書　第5章　高等教育の充
実　第4節　専門人材の育成

資料－1

集計対象としたアンケート項目

Ⅱ. 授業内容について

（1） この授業の満足度はいかがですか。
5)とても満足　4)おおよそ満足　3)普通　2)やや不満　1)不満　□5□ □4□ □3□ □2□ □1□

（2） この授業内容を理解できましたか。
5)とてもよく理解できた　4)おおよそ理解できた　3)普通　2)あまり理解できなかった　□5□ □4□ □3□ □2□ □1□
1)理解できなかった

（3） この授業を受けてその内容に興味や関心が高まりましたか。
5)多いに関心が高まった　4)少し関心が出た　3)普通　2)あまり関心が湧かなかった　□5□ □4□ □3□ □2□ □1□
1)関心が湧かなかった

Ⅲ. 先生との対話について

（1） 先生は授業の中や授業外で学生の質問や発言を促しましたか。
5)おおいに促した　3)促した　1)全く促さなかった　□5□　□3□　□1□

（2） 学生の質問に対して先生の対応はどうでしたか。
5)とてもよく対応された　3)普通　1)うまく対応されなかった　□5□　□3□　□1□

Ⅳ. 先生の授業方法について

（1） シラバスの説明がありましたか。
5)わかりやすい説明があった　3)説明があったがわかりにくかった　1)説明がなかった　□5□　□3□　□1□

（2） 授業に使用した教材や宿題は授業内容を理解するのに役立ちましたか。
5)とても役に立った　3)多少は役に立った　1)役に立たなかった　□5□　□3□　□1□

（3） 先生の話し方は聞き取りやすかったですか。
5)とても聞き取りやすかった　3)普通　1)とても聞き取りにくかった　□5□　□3□　□1□

（4） 授業に対する先生の熱意や意欲を感じましたか。
5)とてもよく感じた　4)やや感じた　3)普通　2)あまり感じなかった　1)感じなかった　□5□ □4□ □3□ □2□ □1□

（5） 授業中の勉強する雰囲気は良かったですか。
5)とても良かった　4)良かった　3)普通　2)あまり良くなかった　1)良くなかった　□5□ □4□ □3□ □2□ □1□

（6） 授業の進む早さと量はあなたにとって適切でしたか。
5)適切だった　3)普通　1)不適切だった　□5□　□3□　□1□